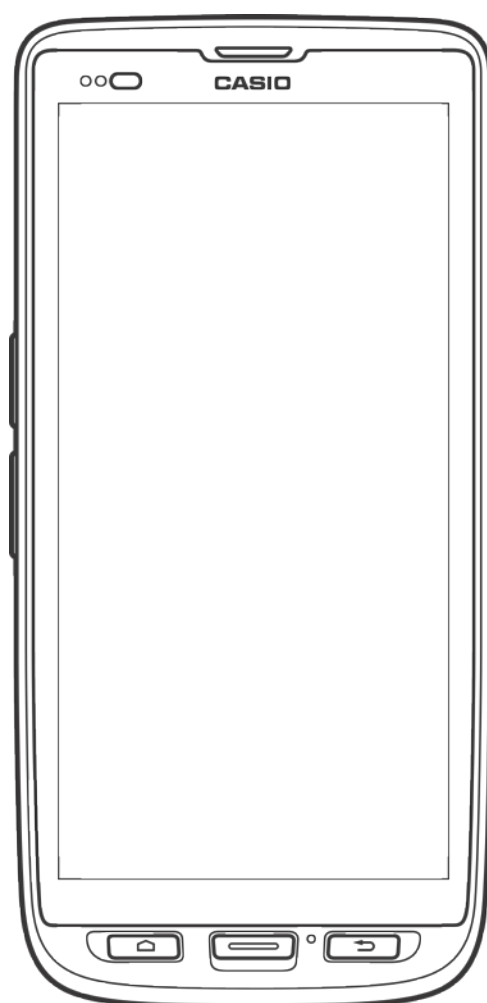


## ET-L10 シリーズ

### キッティング マニュアル

本書は、ET-L10 のキッティング仕様について記載します。



#### ご使用上の注意

- ・ このソフトウェアおよびマニュアルの、一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- ・ このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・ このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ このマニュアルの著作権はカシオ計算機株式会社に帰属します。
- ・ 本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。予めご了承ください。

© 2022 カシオ計算機株式会社

Wi-Fi, Wi-Fi Direct は Wi-Fi Alliance の登録商標です。microSD は SD-3C, LLC の登録商標です。

Android は Google LLC の登録商標です。

その他、本文中に記載されている会社名、および商品名は、各社の商標、または登録商標です。

# 目次

1.概要 .....	2
1.1 ソフトウェア構成 .....	3
1.2 キットインストール手順 .....	4
2.KitCopy .....	6
2.1 機能 .....	6
2.2 手順 .....	8
2.2.1 OSファイル配信および更新手順 .....	8
2.2.2 フォルダーまたはファイル配信手順 .....	12
2.2.3 バックアップファイル配信およびリストア手順 .....	16
2.2.4 配信結果保存 .....	21
3.KitSettings .....	24
3.1 機能 .....	24
3.2 手順 .....	25
3.2.1 バックアップ/リストア手順 .....	25
4.DeviceBarcodeSetting .....	26
4.1 機能 .....	28
4.2 手順 .....	29
4.2.1 設定手順 .....	29
5.OS書き込みツール .....	31
5.1 機能 .....	31
5.2 手順 .....	32
5.2.1 OS書き込み手順 .....	32
5.2.2 ダウングレード時の出荷時リセット手順 .....	34
5.2.3 Android 11へのアップグレード時の出荷時リセット .....	34

## 1. 概要

端末の設定を変更したりアプリケーションをインストールしたりして、業務に利用できる状態にすることを「キッティング」と呼びます。本書は、ET-L10 のキッティングに関するマニュアルです。

ET-L10 のキッティングは親機を作成し、親機の設定やアプリケーションを子機に一斉に配信することで実現します。データの配信は端末同士の **Wi-Fi Direct** で行うためアクセスポイントは不要です。



注意！

親機、子機ともにすべて同じ OS のバージョンで使用してください

## 1.1 ソフトウェア構成

キットティングで使用するアプリケーションの概要です。

アプリケーション	概要
KitCopy	親機で作成したバックアップファイル、OS イメージ、その他ファイルやフォルダーを複数の子機に Wi-Fi Direct 経由でコピーします。
KitSettings	端末の設定 (Android の設定の一部) をバックアップ／リストアするために使用します。
DeviceBarcodeSetting	バーコードを用いて WLAN、WAN の設定を簡単に行うために使用します。 (Android 11 のみ)
OS 書き込みツール	お客様が検証したバージョンの OS イメージを書き込むために使用します。

## 1.2 キットイング手順

下記の手順で親機の設定やアプリケーションを複数の子機へ一括コピーすることでキットイングを実現します。

### [ STEP 1 ]



#### [親機の作成]

- ① アプリケーションやファイルをコピーします。※1
- ② システム設定、キー設定、バーコードスキャナー設定等を変更します。※2
- ③ 「KitSettings」を使用して親機の設定をバックアップします。

### [ STEP 2 ]



#### [子機にファイル配信]

- ① 親機で配信するファイルを選択します。※3
- ② 親機の KitCopy を配信状態にします。
- ③ 子機の KitCopy で受信を開始します。
- ④ 必要であれば、配信したアプリケーションを手動インストールします。

### [ STEP 3 ]



#### [子機にバックアップ配信]

- ① 親機で配信するバックアップファイルを選択します。
- ② 親機の **KitCopy** を配信状態にします。
- ③ 子機の **KitCopy** で受信を開始します。
- ④ 子機の **KitCopy** はバックアップファイル受信後、リストアして端末を再起動します。
- ⑤ 必要であれば、手動で子機の設定を変更してください。
- ⑥ **WLAN**、**WAN** 設定を行う場合は **Device Barcode Setting** を使用すると簡単に設定できます。

※1 アプリケーションを親機にインストールする必要はありません。

※2 バックアップ／リストアされる内容は各アプリのポリシーに依存しており、"すべての設定"でないことに注意してください。ポリシーによって設定内容がバックアップ／リストアされない場合は、個別に手動設定してください。

※3 複数のファイルを配信したい場合は、一つのフォルダーにまとめてフォルダーごと配信すると効率的にキッティングを行えます。

各アプリケーションについて

**KitCopy** については「2 **KitCopy** (p.6)」を参照してください。

**KitSettings** については「3 **KitSettings** (p.24)」を参照してください。

**DeviceBarcodeSetting** については「4 **DeviceBarcodeSetting** (p.26)」を参照してください。

## 2. KitCopy

### 2.1 機能

本アプリケーションは、**Wi-Fi Direct** を使用して、キッティングに必要なファイルやフォルダーを親機(サーバー)から複数の子機(レシーバー)に配信します。

**KitCopy** では **Wi-Fi Direct** を使用して端末間通信をおこなうため、**WLAN** アクセスポイントは不要です。  
最大 **3** 台の子機に対して配信可能です。

注意！

親機は **1** 台で運用してください。複数の親機による配信には対応していません。

機種、モデルによって **OS** ファイル名が変化します。



本アプリケーションは、端末上で動作し、以下の機能を提供します。

機種はCASIOのAndroid搭載ハンディターミナル(ET-L10, IT-G400, DT-X400等)を意味し、モデルはET-L10のモデル(WC21, WC21-AO等)を意味し、OSはET-L10のOSバージョン(EN\_25, CN\_25等)を意味します。

つまり、OSファイル配信機能は異なるOSバージョン間も動作しますが、異なる機種や異なるET-L10のモデル間では動作しません。

KitCopyを使用して配信するファイルはOSファイル、運用ファイル、バックアップファイルなど、その多くが機種やモデルに依存するため、異なる機種や異なるモデル間での配信はできません。

機能	概要	機種	モデル	OS
OSファイル配信 ／更新	親機からOSファイルを配信し、子機で受信します。受信後は自動でOS更新をします。  親機:内部ストレージまたは外部ストレージ 子機:内部ストレージ	同一必須	同一必須	不問
フォルダー／ファイル配信	親機からキッティング用のフォルダーまたはファイルを配信します。  親機:内部ストレージまたは外部ストレージ 子機:内部ストレージ	同一必須	同一必須	不問
バックアップファイル配信／リストア	親機からバックアップファイルを配信し、子機で受信します。受信後は自動でリストアをします。  親機:内部ストレージまたは外部ストレージ 子機:内部ストレージ	同一必須	同一必須	同一必須
配信結果保存	配信結果を親機の内部ストレージにcsvファイル形式で保存します。 配信結果とともに子機のシリアル番号やOSビルド番号を出力し、配信結果の確認や端末管理リストの作成に活用することができます。	-	-	-

## 2.2 手順

本アプリケーションの各機能は以下の手順で使用してください。

### 2.2.1 OS ファイル配信および更新手順

OS ファイルを配信し、子機は受信後に自動で OS 更新を行います。

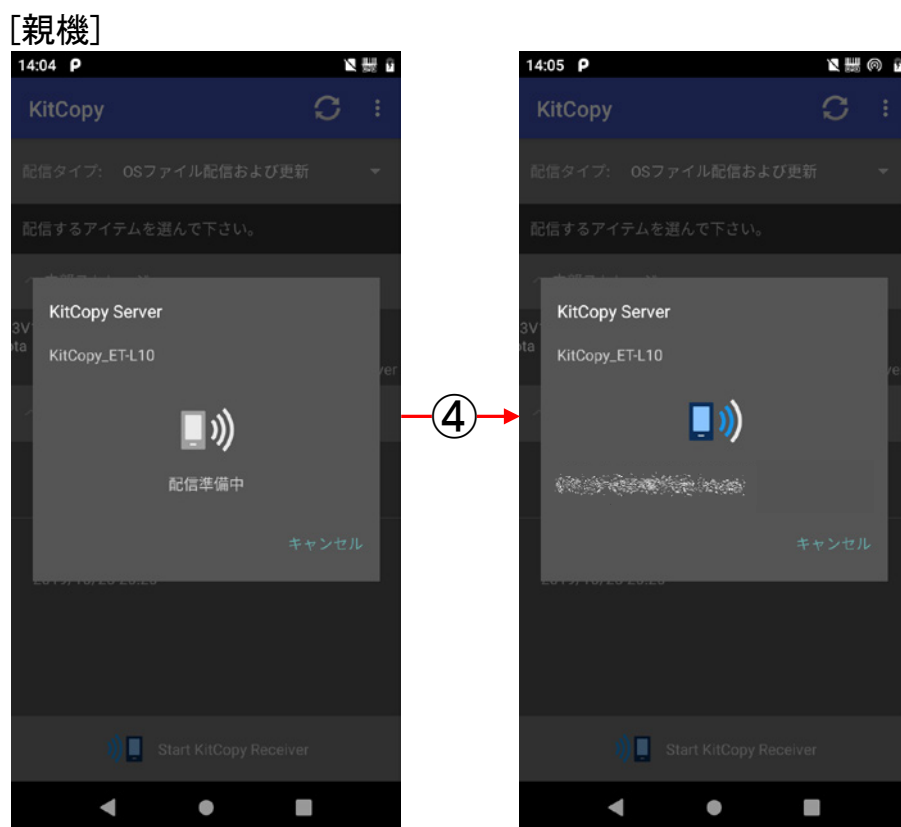
配信する OS ファイルは親機の内部ストレージまたは外部ストレージ (microSD カード) のルートフォルダーに置いてください。

まず、親機の手順を以下に示します。

- ① [OS ファイル配信および更新]を選択します。
- ② 配信する OS ファイルを選択します。
- ③ [Start KitCopy Server]をタッチします。



- ④ 配信準備中→配信する OS ファイル名表示の画面に切り替わると配信準備完了となります。



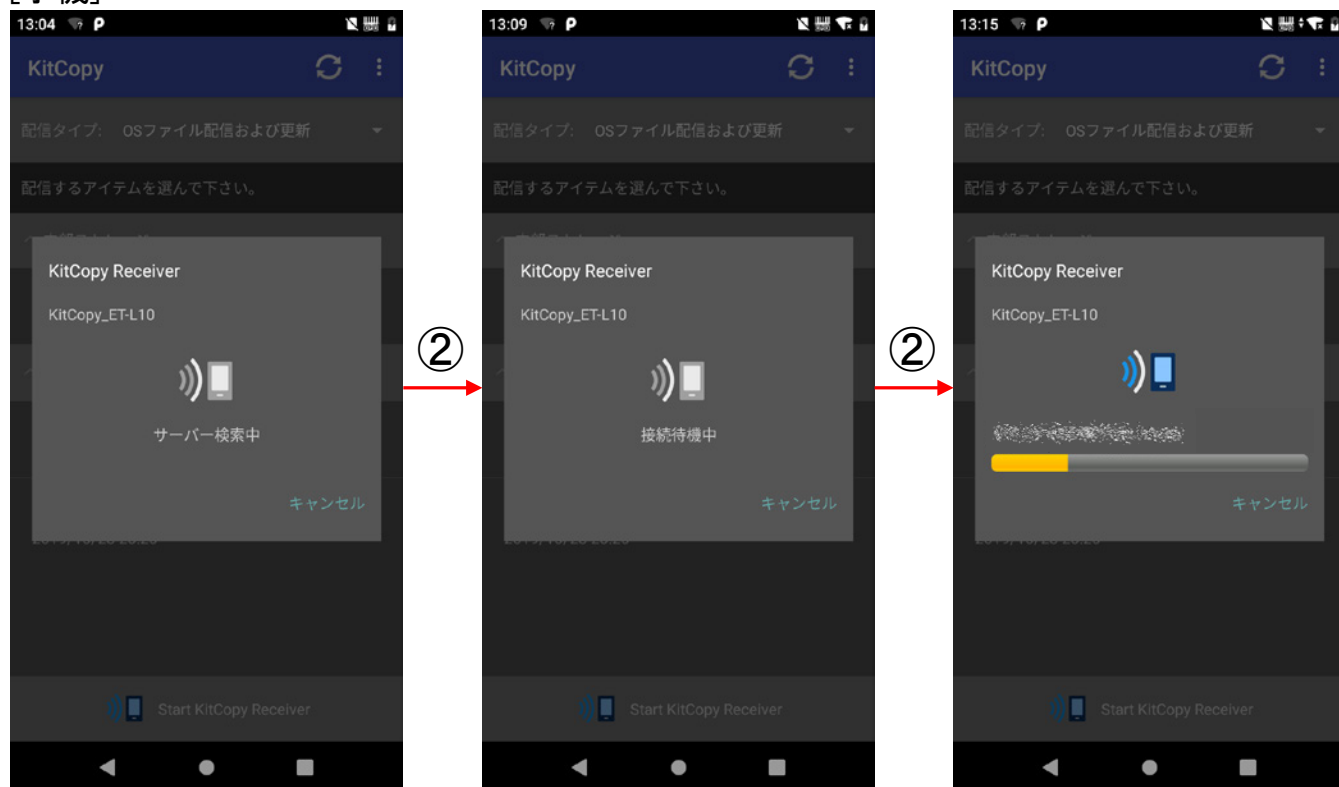
次に、子機の操作手順を以下に示します。

- ① [Start KitCopy Receiver]をタッチします。



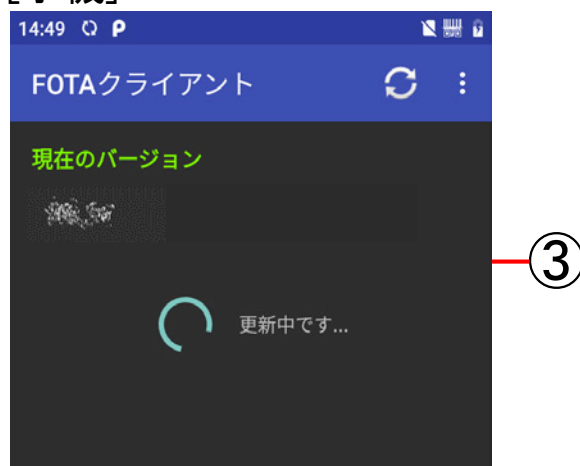
- ② サーバー検索中→接続待機中→ファイル受信進捗バー表示の画面に切り替わり、受信を開始します。  
受信した OS ファイルは内部ストレージのルートフォルダーに保存されます。

[子機]



- ③ 自動で子機の OS 更新を行います。  
OS 更新の処理で端末が自動的に再起動し、完了します。

[子機]



## 2.2.2 フォルダーまたはファイル配信手順

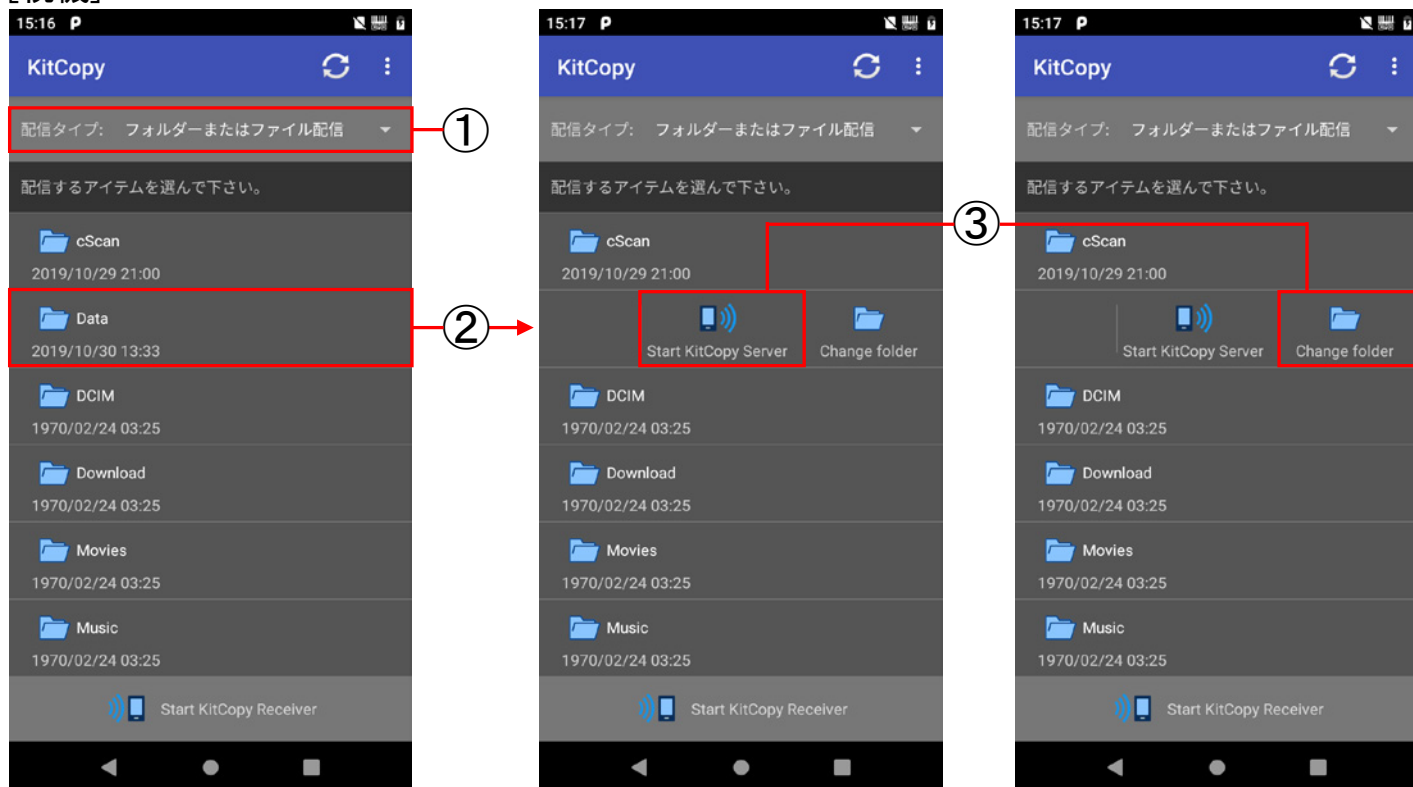
キッティング用のフォルダーまたはファイルを配信することができます。

配信するフォルダーまたはファイルは親機の内部ストレージまたは外部ストレージ(microSD カード)の任意フォルダーに置いてください。

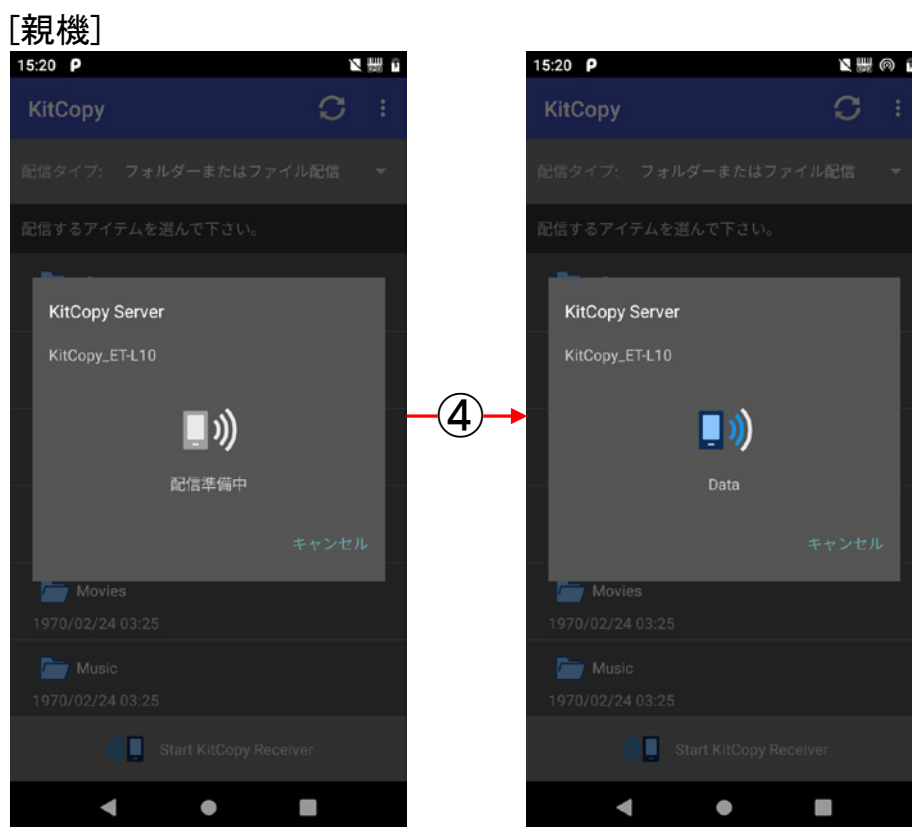
まず、親機で配信フォルダーまたはファイルを選択します。

- ① [フォルダーまたはファイル配信]を選択します。
- ② 配信するフォルダーまたはファイルを選択します。
- ③ [Start KitCopy Server]をタッチすると配信準備を開始します。[Change folder]をタッチするとフォルダー内に移動し、フォルダー内のフォルダーまたはファイルを選択することが可能です。  
1 つ上のフォルダーへ戻る場合は[..1 つ上のフォルダーへ]をタッチし、[Change folder]をタッチします。

[親機]



- ④ 配信準備中→配信フォルダーまたはファイル名表示の画面に切り替わると配信準備完了となります。



次に子機の手操作手順を以下に示します。

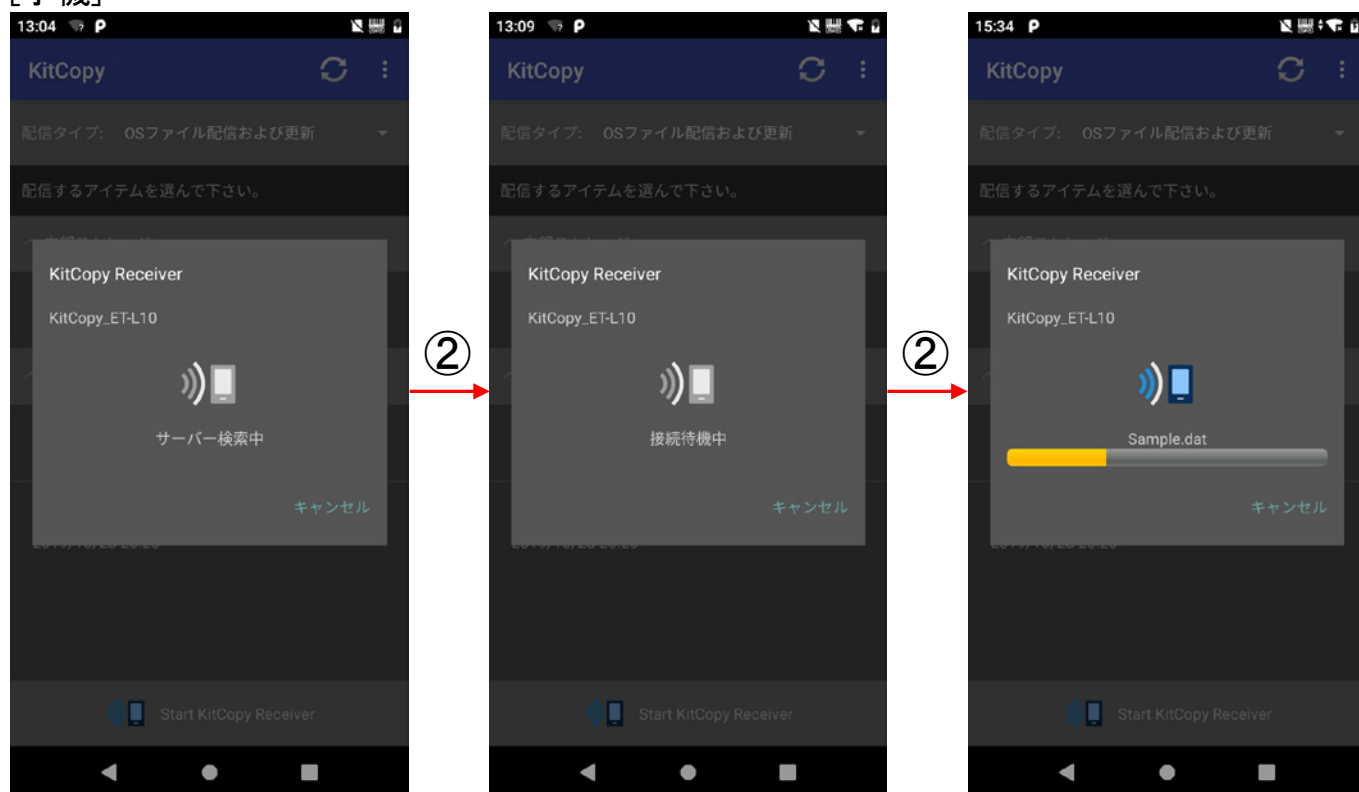
- ① [Start KitCopy Receiver]をタッチします。





- ② サーバー検索中→接続待機中→ファイル受信進捗バー表示の画面に切り替わり、受信を開始します。  
受信したフォルダーまたはファイルは子機内部ストレージのルートフォルダーに保存されます。  
受信が完了すると、メイン画面に戻ります。

[子機]



## 2.2.3 バックアップファイル配信およびリストア手順

バックアップファイルを配信し、子機では受信後にリストア確認画面が表示され、リストアを行います。

配信するバックアップファイルは親機の[KitSettings]ツールを使用して作成してください。

上記で作成したバックアップファイルを配信するので、フォルダー構成は変更しないでください。

リストアはバックアップファイル作成時と同一の OS バージョンで実行する必要があるため、子機は親機と同一の OS バージョンで受信してください。

親機の操作手順を以下に示します。

- ① [バックアップファイル配信およびリストア]を選択します。
- ② 配信するバックアップファイルを選択します。右の画面となります。
- ③ [Start KitCopy Server]をタッチします。



- ④ 配信準備中→配信するバックアップファイル名表示の画面に切り替わると配信準備完了となります。



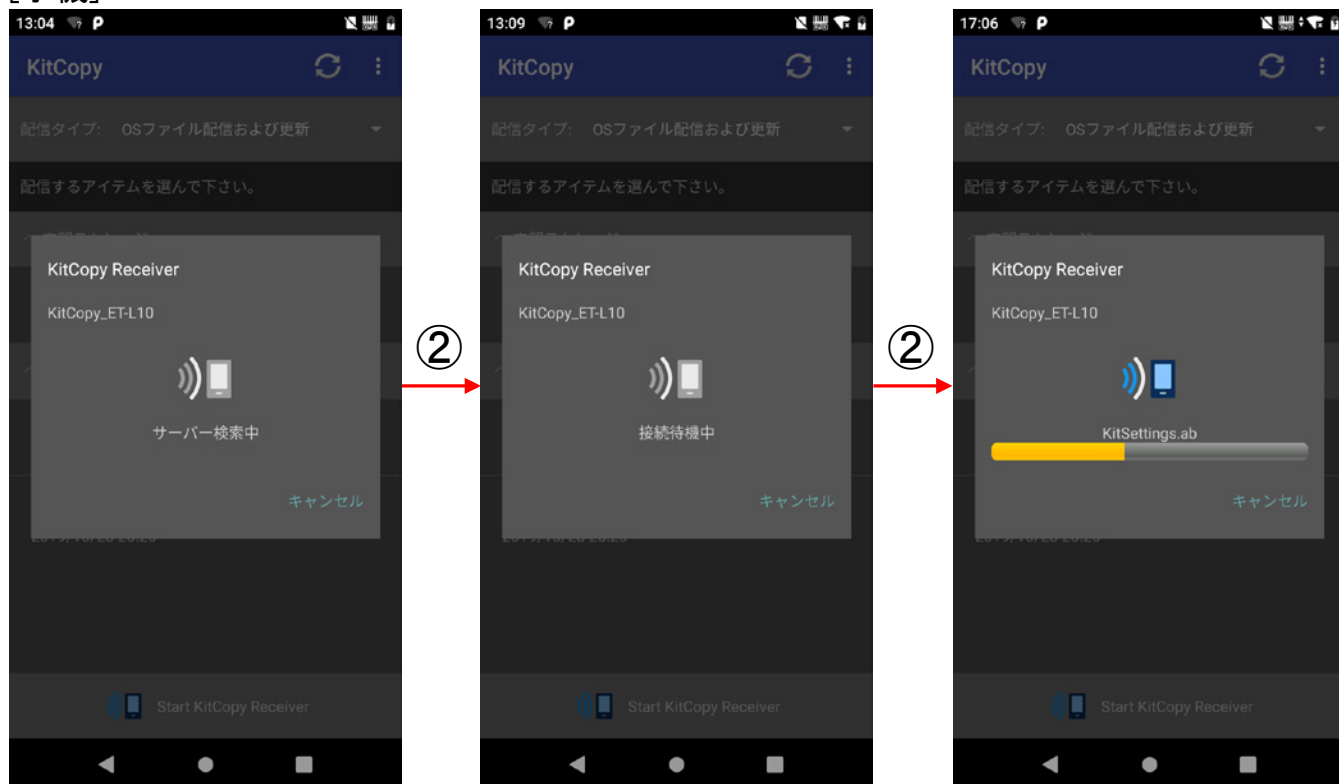
次に、子機の操作手順を以下に示します。

- ① [Start KitCopy Receiver]をタッチします。

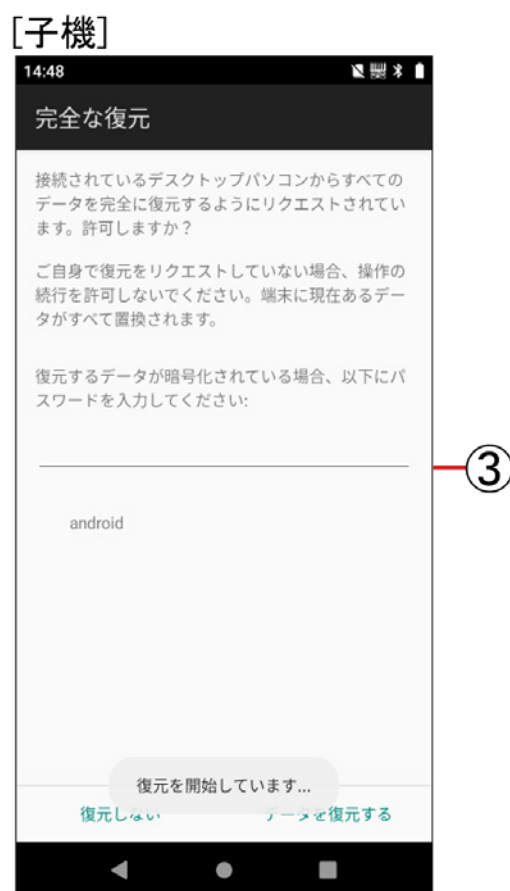


- ② サーバー検索中→接続待機中→ファイル受信進捗バー表示の画面に切り替わり、受信を開始します。  
受信したバックアップファイルは子機内部ストレージのルートフォルダーに保存されます。

[子機]



- ③ リストア確認画面が表示されます。  
リストアの処理で子機が自動的に再起動し、完了します。



## 2.2.4 配信結果保存

各子機への配信結果を親機の内部ストレージに **csv** ファイル形式で保存します。  
出力ファイルには配信結果とともに子機のシリアル番号、OS ビルド番号を出力します。  
保存先: /storage/emulated/0/KitCopyResult.csv

注意！

配信結果は親機と子機が接続成功した場合のみ出力します。

子機が親機の検索中や接続待機中にエラーやキャンセルなどで接続および配信に至らなかった場合、親機は子機を認識することができないため、配信結果は出力されません。

配信結果ファイルは以下の形式で出力されます。

"日付","時刻","配信タイプ","配信ファイル名または配信フォルダー名","子機のシリアル番号",  
"子機の OS ビルド番号","配信結果"

例)

```
"20190101","082236","OS","ETL10-V001B09-EN_16.ota","1528689",  
"A8ETL10V100R001C001B016_EN_16","SUCCESS"  
"20190101","082400","OS","ETL10-V001B07-EN_14.ota","1528689",  
"A8ETL10V100R001C001B016_EN_16","CANCEL"  
"20190101","112927","FOLDER","Data","1528689","A8ETL10V100R001C001B016_EN_16",  
"SUCCESS"  
"20190101","113000","FOLDER","Data","1528689","A8ETL10V100R001C001B016_EN_16",  
"CANCEL"  
"20190101","113030","FILE","test.zip","1528689","A8ETL10V100R001C001B016_EN_16",  
"FAILURE"  
"20190101","113045","FILE","test.zip","1528689","A8ETL10V100R001C001B016_EN_16",  
"SUCCESS"  
"20190101","113128","BACKUP","KitSettings.ab","1528689",  
"A8ETL10V100R001C001B016_EN_16","SUCCESS"  
"20190101","113338","BACKUP","KitSettings.ab","1528689",  
"A8ETL10V100R001C001B016_EN_16","CANCEL"
```

### 配信タイプ

配信タイプは 4 種類あります。

配信タイプ	詳細
OS	"OS ファイル配信および更新"で配信
FOLDER	"フォルダーまたはファイル配信"でフォルダー配信
FILE	"フォルダーまたはファイル配信"でファイル配信
BACKUP	"バックアップファイル配信およびリストア"で配信

## 配信結果

配信結果は3種類あります。

配信結果	詳細
SUCCESS	子機は正常に受信を完了しました。
FAILURE	通信エラー、通信タイムアウト、その他のエラーにより、子機で受信が完了しませんでした。
CANCEL	子機で受信中に親機または子機でキャンセルしました。

## エラー一覧

エラーが発生した場合、子機に以下のような画面が表示されます。





発生するエラーは 7 種類あります。

エラーコード	エラー表示	詳細	対応
E-03	通信エラー	受信中に親機との接続が切断されたか、通信データ異常を検出しました。	親機と子機を近くに置いて再受信してください。
E-04	通信タイムアウト	受信中に親機との通信がタイムアウトしました。	親機と子機を近くに置いて再受信してください。
E-05	ファイル書き込みエラー	受信中にファイルの書き込みに失敗しました。 内部ストレージの空き容量がなくなった可能性があります。	内部ストレージの空き容量を確認してください。
E-06	チェックサムエラー	受信したファイルのチェックサムが一致しませんでした。	親機と子機を近くに置いて再受信してください。
E-07	ディスクフル	受信するファイルを保存する内部ストレージの空き容量がありません。	内部ストレージの空き容量を確認してください。
E-08	サーバーキャンセル	受信中に親機でキャンセルしました。	親機でキャンセルしたことを確認してください。
E-09	対象外 OS ファイル	更新できない OS ファイルを受信しました。	子機および OS ファイルの OS バージョンを確認してください。

## 3. KitSettings

### 3.1 機能

端末の設定をバックアップおよび、バックアップした設定を端末にリストアします。

注意！

バックアップしたデータのリストアは、必ずバックアップ元と同一機種、同一モデル、同一 OS バージョンで行ってください。

本アプリケーションは、リストアを実行した後、端末を再起動します。

本アプリケーションは端末上で動作し、以下の機能を提供します。

機種はCASIOのAndroid搭載ハンディターミナル(ET-L10, IT-G400, DT-X400等)を意味し、モデルはET-L10のモデル(WC21, WC21-AO等)を意味し、OSはET-L10のOSバージョン(EN\_25, CN\_25等)を意味します。

つまり、リストア機能は異なる機種や異なるET-L10のモデル、異なるOSバージョン間では動作しません。

機能	概要	機種	モデル	OS
バックアップ	バックアップファイルを作成します。	-	-	-
リストア	バックアップファイルからリストアをおこないます。	同一必須	同一必須	同一必須

本アプリケーションがバックアップ/リストア対象とする設定は下表のとおりです。

バックアップ/リストア対象	説明
設定	"設定"で設定した内容を対象とします。対象の詳細は下記の「注意」を参照してください。
ホーム画面	ホーム画面に配置されたショートカットや、アプリケーション一覧に表示される内容を保存します。Android 9 でのみ保存します。
スキャン設定	"設定"内の"スキャン設定"を対象とします。 "スキャン設定"は、バーコードスキャナーの設定を行うためのアプリケーションです。
ユーザー定義	"設定"内の"ユーザー定義"を対象とします。 "ユーザー定義"は、サイドキーに別の機能を割り当てるために使用します。

注意！

KitSettingsによる「バックアップ/リストア」は、「AndroidのBackup manager Service」を介して、各アプリのバックアップ機能、およびリストア機能呼び出すことで実現しています。バックアップ/リストアされる内容は各アプリのポリシーに依存しており、「すべての設定」ではありません。

期待した設定内容がバックアップ/リストアされない場合は、個別に手動設定してください。

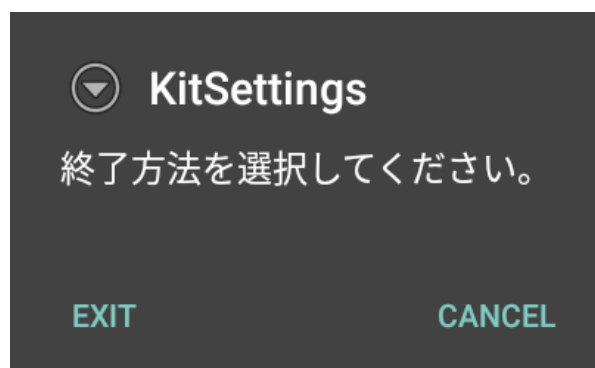
## 3.2 手順

本アプリケーションの各機能は以下の手順で使用してください。

### 3.2.1 バックアップ/リストア手順



- ① バックアップ、またはリストアに使用するファイルのパスが表示されます。
- ② [Select]をタッチすると、上記パスを変更するためのダイアログを開きます。
- ③ [Backup]をタッチすると、バックアップを開始します。
- ④ [Restore]をタッチすると、リストアを開始します。
- ⑤ フルバックアップ画面表示後、自動的にバックアップが開始します。(パスワードは設定できません)
- ⑥ 完全な復元画面表示後、自動的にリストアが開始します。(パスワードは入力できません)
- ⑦ 本アプリケーションの終了画面を表示します。終了させる場合は **EXIT** を選択してください。



## 4. DeviceBarcodeSetting

DeviceBarcodeSetting はバーコードを用いて各種設定を簡単に行うためのアプリケーションです。

DeviceBarcodeSetting は、Android 11 にのみ搭載されています。

PC ツールの「無線 LAN 設定バーコード印刷ツール」を用いて端末に対する各種設定をバーコード化します。そのバーコードを読み取るだけで端末の設定を変更することができます。

「無線 LAN 設定バーコード印刷ツール」のご使用に関しては営業へお問い合わせください。



注意！

本アプリケーションは Windows CE 用に提供していたアプリケーションと一部仕様が異なります。Android 版では下記の「WLAN のセキュリティ種類」、「ユーザー証明書」、「CA 証明書」の仕様が Windows CE 版と異なりますのでご注意ください。

スキャナー設定でターミネーターに Space を指定すると、本アプリケーションは正しく動作できない場合があります。本アプリケーションを使用する際は、Space 以外を指定してください。

### WLAN のセキュリティ種類

「無線 LAN 設定バーコード印刷ツール」で選択できるセキュリティの種類は WindowsCE 版でサポートしている種類と同じですが、Android では一部サポートされていないセキュリティ設定があります。

(詳細は「4.1 機能 (p.28)」を参照してください)

## ユーザー証明書(EAP 証明書)

「ユーザー証明書」は「無線 LAN 設定バーコード印刷ツール」の「EAP 証明書」カラムで指定する設定です。Windows CE 版では、ユーザー証明書はユーザーが手動で端末にインストールしますが、Android 版では本アプリケーションが特定のフォルダーにあるユーザー証明書を自動的にインストールします。

ユーザー証明書は外部/内部ストレージから最初に見つけた証明書(.pfx)を使用します。

証明書ファイルは microSD カード(/storage/????-????/WLANCERT)、内部ストレージ(/storage/emulated/0/WLANCERT)の順番に検索します。

また、ユーザー証明書を自動的にインストールするために「無線 LAN 設定バーコード印刷ツール」の「EAP 証明書」カラムでユーザー証明書のパスワードを指定する必要があります。

証明書(pfx)と秘密鍵(pvk)のパスワードが同じ場合はそのパスワードを 1 つ指定します。

SSID	アドホック	セキュリティ	KEY	Index	EAP ユーザ名	EAP パスワード	EAP 証明書	EAP ドメイン	EAP 証明書確認
1 AP1	<input type="checkbox"/>	WPA+EAP-TLS			user		12345678		<input checked="" type="checkbox"/>

証明書(pfx)と秘密鍵(pvk)のパスワードが異なる場合は「pfx パスワード,pvk パスワード」の形式で指定します。この場合「,」も含めて 16 文字まで指定できます。

SSID	アドホック	セキュリティ	KEY	Index	EAP ユーザ名	EAP パスワード	EAP 証明書	EAP ドメイン	EAP 証明書確認
1 AP1	<input type="checkbox"/>	WPA+EAP-TLS			user		1234,5678		<input checked="" type="checkbox"/>

## CA 証明書(EAP 認証確認)

「CA 証明書」は「無線 LAN 設定バーコード印刷ツール」の「EAP 認証確認」カラムで指定する設定です。Android 版では端末内の証明書(システム証明書)を使用する以外に、任意の CA 証明書を指定することができます。使用できる CA 証明書は「.cer」です。

任意の CA 証明書を使用する場合は外部/内部ストレージの特定のフォルダーに CA 証明書をコピーしてください。

証明書ファイルは microSD カード(/storage/????-????/WLANCERT)、内部ストレージ(/storage/emulated/0/WLANCERT)の順番に検索します。

## 4.1 機能

DeviceBarcodeSetting では下記の機能を提供します。

機能	概要
WLAN 設定	WLAN/NTP 設定を行います。 ※1 ※2 ※3 ※4
WAN 設定	WAN 設定を行います。設定時に SIM が必要です。 ※5

※1 以下の設定と DHCP/Static IP の設定が使用できます。Proxy 設定はできません。

- ・ セキュリティなし
- ・ WEP, 64/128bit, OPEN/共有
- ・ WPA/WPA2, PSK
- ・ WPA/WPA2, PEAP/TLS/TTLS, MSCHAPv2/GTC

※2 PEAP0、PEAP1 は PEAP として設定します。

※3 すでに端末に登録しているアクセスポイントに対して設定した場合、セキュリティ方式は変更しません。固定 IP 設定のみ上書します。

※4 本アプリケーションを使用してアクセスポイントを設定した場合、端末内に登録済みの他のアクセスポイント情報はすべて削除します。

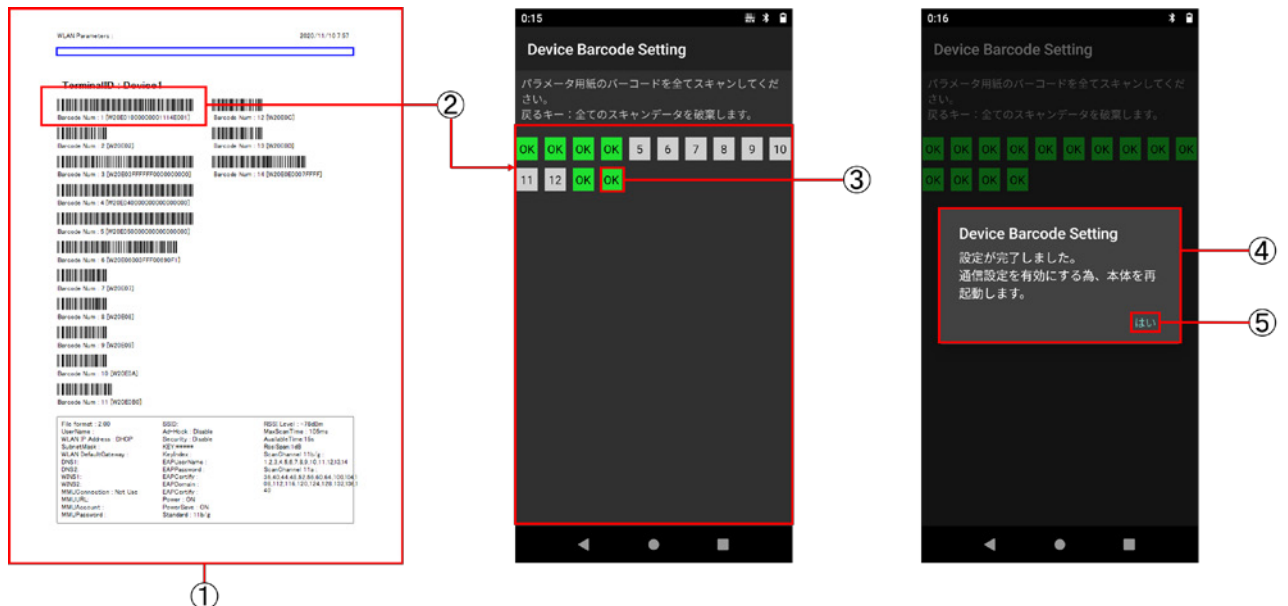
※5 以下の認証方式が使用できます。

- ・ なし
- ・ PAP
- ・ CHAP

## 4.2 手順

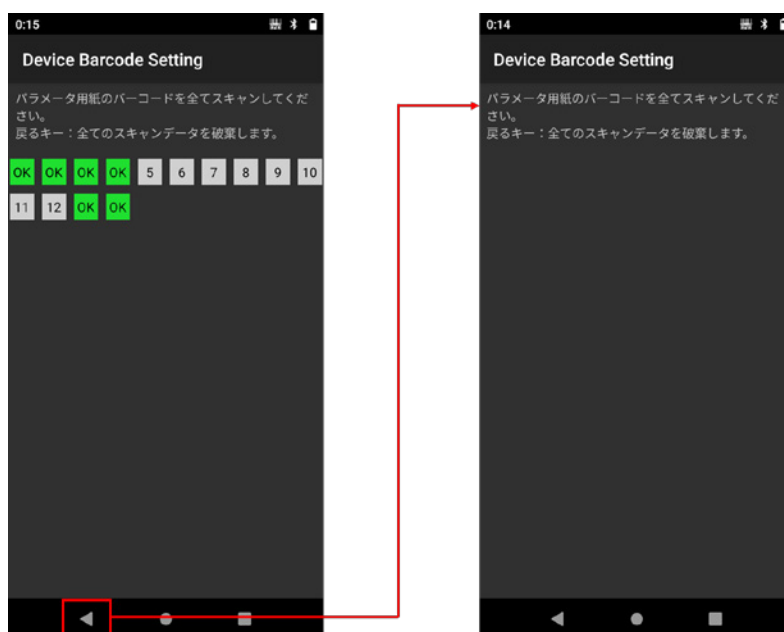
### 4.2.1 設定手順

本アプリケーションを起動するとバーコードの読取りに必要な設定を自動的に行います。  
アプリケーションの終了時にそれらの設定は起動前の状態に戻ります。  
本アプリケーションのメイン画面を以下に示します。

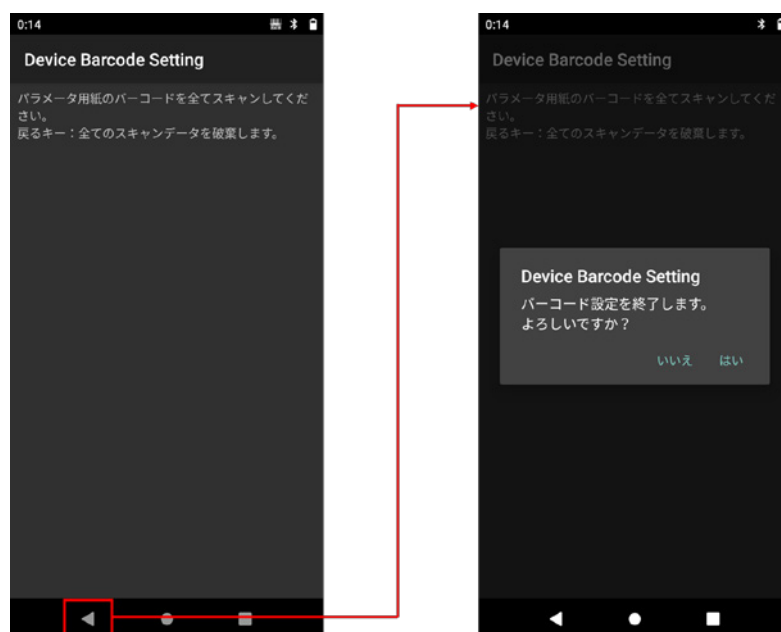


1. 「無線 LAN 設定バーコード印刷ツール」を用いて設定用バーコードを作成します。
2. 本アプリケーションを起動し、設定用バーコードを 1 つでも読取ると確認フィールドにボックスが表示されます。  
バーコードの読込順序は任意ですが、印刷したすべてのバーコードを読取る必要があります。
3. バーコードの読取りが成功すると読取った番号は「OK」表示に変わり緑色になります。
4. 全てのバーコードを読取ると端末に設定をおこない確認ダイアログが表示されます。
5. 「はい」を選択すると端末が再起動します。

バーコードを読み込んだ状態で「戻る」ボタンを押すと、読取ったバーコードデータをすべて破棄し、バーコードを読取っていない状態に戻ります。



起動時及び、バーコードを読取っていない状態ではバーコード確認フィールドには何も表示しません。この画面で「戻る」ボタンを押すと終了確認ダイアログを表示して終了します。





## 5. OS 書き込みツール

### 5.1 機能

OS 書き込みツールはお客様が検証したバージョンの OS イメージ(ダウングレードを含む(Android 9 のみ))を書き込むために使用します。

本アプリケーションは、端末上で動作し、以下の機能を提供します。

機能	概要
OS 書き込み	選択された OS イメージを書き込みます。

注意！

全ての OS バージョンにダウングレードできるわけではありません。ハードウェア部品の生産終了に伴う部品変更に対応するために OS が修正された場合、修正以前のバージョンの OS にダウングレードすることはできません。

ダウングレードできる下限の OS バージョンは、本ツール上で確認することが出来ます。

Android 11 OS のダウングレードには対応していません。

Android 9 から Android 11 へのアップグレードは、現在の Android 9 のセキュリティ パッチレベル以上の Android 11 フルイメージでのみ可能です。

Android 11 へアップグレード後に Android 9 へ戻すことはできません。

## 5.2 手順

本アプリケーションの各機能は以下の手順で使用してください。

### 5.2.1 OS 書き込み手順

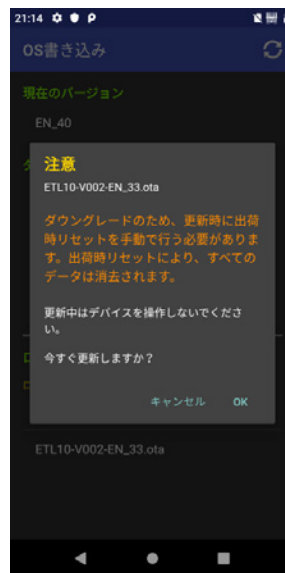
1. 書き込む OS イメージを内部ストレージまたは外部ストレージ(microSD カード)のルートフォルダーに配置します。
2. 外部ストレージに OS イメージを配置した場合は、外部ストレージを端末に装着します。
3. OSWriterXXXXXXXXX.apk を端末にインストールします。(ファイル名の XXXXXXXXXXXX はバージョンを表しております。)
4. アプリを起動し、ローカルに表示されている書き込む OS イメージを選択すると、確認画面が表示されます。[OK]をタッチすると、OS の書き込みが開始されます。書き込みが完了すると、自動的に再起動します。



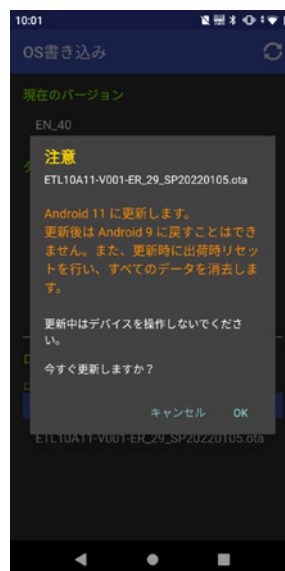
注意！

Android 9 上で古いバージョンの OS イメージを書き込むダウングレードの場合は、更新時に出荷時リセットを手動で行う必要があります。また、Android 9 から Android 11 へアップグレードする場合、自動的に出荷時リセットが実行されます。出荷時リセットにより、すべてのデータは消去されますので、ご注意ください。

OS イメージ選択時に以下の出荷時リセットを行う必要がある旨の確認画面が表示されます。



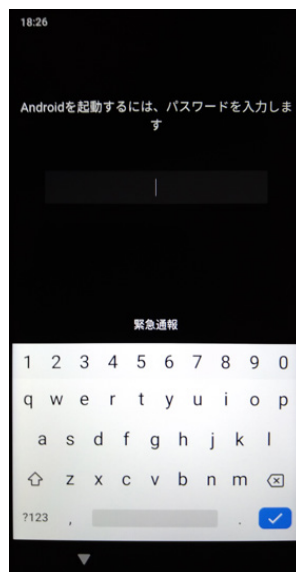
OS ダウングレード時



Android 11 へのアップグレード時

## 5.2.2 ダウングレード時の出荷時リセット手順

ダウングレードした場合は以下の画面で端末が起動します。



OS を起動するためには以下の手順で出荷時リセットを行う必要があります。

1. 電源キーを押し、電源オフします。
2. Lトリガーキーとライトキーを押しながら電源キーを押して電源オンします。
3. **Android Recovery** が起動します。
4. Rトリガーキーを 4 回押して[Wipe data/factory reset]にカーソルを合わせて、電源キーを押します。
5. Rトリガーキーを押して[Yes]にカーソルを合わせて、電源キーを押します。
6. データが消去され、**Android Recovery** の画面に戻ります。
7. [Reboot system now]にカーソルを合わせて、電源キーを押し、OS を起動します。

## 5.2.3 Android 11 へのアップグレード時の出荷時リセット

Android 9 から Android 11 へのアップグレードを行った場合には、自動的に出荷時リセットにより全てのデータが消去され、初期画面が表示されます。

## カシオ計算機お問い合わせ窓口

●製品サポートサイト

<https://casio.jp/support/ht/>

**カシオ計算機株式会社**

〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

TEL 03-5334-4638(代)